

## 水抜き操作方法（凍結防止）

### 水抜き方法

①台所にございます、水抜き操作リモコンの《電源》を入れる。

水が使える状態のときは、少しすると二つの【通水】ランプが緑色に点灯します。

②《水抜》ボタン **押** を押します。

【水抜】ランプが赤い点滅を始め、しばらくすると赤く点灯します。（二つとも）

③各蛇口（流し・洗面台・浴室）を開き、空気を入れて、配管に残っている水を抜きます。

※ お水側、お湯側、両方に動かしてください。

トイレの水も流して抜いてください。

※ トイレタンクは1回では空になりません。2回ほど流してください。

④事故防止のため、開いた蛇口を全て閉めてください。

**⚠** 冬期間は、玄関ホーム分電盤内の凍結防止回路ブレーカーは下げないでください。  
また、給湯器のコンセントを抜いたり、ブレーカーを下げたりしないでください。



### 通水方法

①全ての蛇口が閉まっていることを確認してください。

②水抜き操作リモコンの《電源》を入れる。

水抜き状態のときは、少しすると二つの【水抜】ランプが赤に点灯します。

③《水抜》ボタン **押** を押します。

【通水】ランプが点滅を始め、しばらくすると緑色に点灯します。（二つとも）

④蛇口を開き、水が出るか確認してください。

※ 初めは配管の中の空気が出てくるため、水の出方が安定しません。

少しずつ開いて、空気を抜いてください。

※ 赤水が出るがありますが、少しの間流していただきますと、自然になくなります。

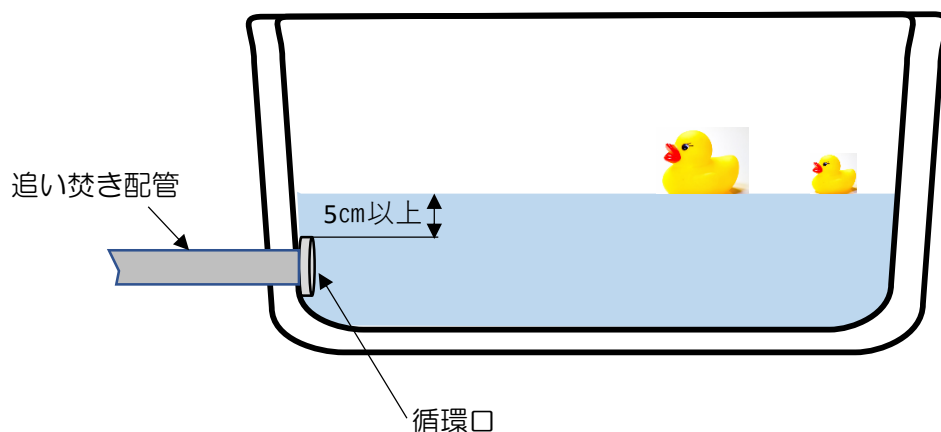
## 給湯器の凍結防止について

お住まいのお部屋には、給湯器が設置されております。凍結による故障は自己負担となりますので、先の水抜き操作に加え、以下のことをお守りください。

- ① 冬期間中は、長期不在の場合も、室内の契約ブレーカーを切らないでください。  
また、室内分電盤の『給湯器及び凍結防止ヒーターのブレーカー』は、絶対に切らないでください。
- ② パイプシャフト（水道メーターがあるところ）に、凍結防止ヒーターがある場合は、コンセントが差し込まれているか確認し、抜けている場合は差し込んでください。  
給湯器がベランダにある場合は、その周りの配管にも凍結防止ヒーターが巻いてあります。  
どちらの場合も冬期間は必ず『コンセントが抜けていないか確認』をお願いします。
- ③ 給湯器のコンセントも抜かないでください。（給湯器本体のヒーターが作動するため）

※ **追い焚き機能の付いている浴槽**は、循環口より5cm以上になるように水を溜めておいてください。（残り湯で構いません）

∴給湯器が外気温を感知して、自動で追い焚き配管内の水を循環し、凍結を防止します。



追い焚き機能がない場合は、水は溜めておかないでください。

- その他詳細については、各取扱い説明書をご確認ください。
- 長期不在などにより電力の契約解除を行う場合は、事前に住宅センターにもお知らせください。